



特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌



140号

2020年11月20日発行号

お元気ですか

自然文化誌研究会 代表理事 中込 卓男

10月も終わろうとしている。小菅村にも行っていない。職場と家との往復の日々。自転車で丘陵を2つ越えていく。上りと下りばかりの道で、片道1時間汗をかく。以前は負けたことがなかった電動自転車にぬかれて行く……。みなさま、お元気ですか？ 今までとちがった日常の中、変わりはないでしょうか？ 今回の新型コロナウイルスの流行は、自然文化誌研究会にも大きな影響をあたえている。

今年度の春からの行事「野草の天ぷらとお茶つみの会」中止。5月の連休中の「むらまつりキャンプ」中止、夏の「(こすげ) 冒険学校」中止、「タイ環境学習キャンプ」中止、9月の「INCH まつり」も中止。「環境学習セミナー」も同じで、要するに人が集まる活動はすべてできていない。

運営委員会も直接会って開くこともできず、メールでのやりとりでいろいろ決めている。実際の活動ができない中、いい機会なので、経営(会計)改善といったらいいか、万年赤字体質といったらいいか、この会の発足当初からの困った問題点を解決できないかと話し合いを始めている。やりたいことがいろいろ増え、子どものための冒険学校をやり始めたところから、専属の事務局が必要になってきた。国分寺市にアパートの一室を借りて事務室にしていたときもあった。本会のために働いてくれる事務局に、十分な報酬も払えず、またその人の人生を本会が規制してしまっているという責務。初代事務局長の岩谷さん、次の小川さん、二人体制の時もあった。小松さん、間瀬さん、菱井さん、そして今の黒澤さん。このみなさんには感謝しかない。

昨年2019年の会計収支は、収入160万円(主催事業収入80万円、会費収入80万円)支出260万円(事業支出150万円、職員給与110万円)で、100万円の赤字(運営委員の西村さんの計算より)。これをなんとかしなければならぬ。会費で運営していかなければならぬのだが、現実は無理で、助成金を申請して、交付してもらったり、寄付していただいたり四苦八苦。特別維持会員10万円の年会費も会員の定年退職等により5万円になったり等で暗い現実にもコロナ禍も加わり、どこをみたらいいか考えこんでしまう。

すっかり暗い話になった。立ち止まっているわけではないが、一つの転換期かもしれない。最近では2011年の東日本大震災の時、運営委員会でいろいろ話し合ったのを思い出す。価値観が変化していくのを感じる。

だれもまだやっていないことをやる、パイロットワークのパイオニア。そんな自然文化誌研究会である。それはこれからも変わらないだろう。何を残し、何をやめていくかはみんなでも話し合えばいい。新しいことをやりたくなったら、みんなに声をかけ話し合う。みんなでもやろうということになったら楽しい。言い出しっぺとして一人でやってもいい。これもまた楽しい。おもしろそうな話をして、それに興味を持ってくれる人がいたら会員に誘ってほしい。後200人は新規会員が必要である。

最近ギターを持ち出して「Hard Times Come Again No More」(「厳しい時代はもう来るな」「辛い時代」という歌をよく歌う。S.フォスター(1826-1864、アメリカ)によって作られた(作詞・作曲)。1854年の作品である。世界中で歌われ、ボブ・ディランはじめ世界中のアーティストが歌っているが、日本では矢野顕子や坂庭しょうごが歌っている。ああ、今歌うのにふさふさしいと、お酒片手に、秋の夜長である。

(お詫び) ホームページに告知しましたが、5月発行予定のナマステ140号を今回まで遅らせました。主催事業を開催できない見込みだったので少しでも経費を削減しなければならぬ状況、開催告知・活動報告等が止まっていたためです。実はこの期間にも寄稿を戴いており、「会報ナマステWEB特別版」としてホームページに掲載しています。お時間のある時にぜひお楽しみください！！ (事務局)

『冒険学校を考える』 その4

これからのキャンプはどうなる？

自然文化誌研究会 理事（冒険学校担当） 鈴木英雄

私にもさっぱりわかりません。今年一年皆さんに参加していただいたのキャンプは一つもできませんでした。さあ、これからキャンプの季節だというときに、コロナウイルスによる感染症が流行し始めてしまいました。密はダメと言われ、大声でしゃべることはできず、人と会うときはマスクしなきゃダメ、会わなくてすむなら、会わないようにと、いろいろなことがオンラインで行われています。すべてのことが否定形で語られ、では、なんだったらしてもいいの、と都知事に聞きたかったくらいです。肯定形で語ってくれと憤っておりました。

人との接触8割減なんていうのもありましたよね。その数字はほぼ家族がバラバラにならないと達成できない数字だなあと感じておりました。自粛期間中でしたから、外に出ませんでしたので、さらに8割減なんて言われると、どこを削ればできるんだと、やはり憤っておりました。その甲斐あって、第1波は5月の初めに感染者の減少を見ました。しかし専門家が予想していたように、7月には第2波がきました。マスクをして、密を作らないようにしていたのに、手指消毒もしていたのに、私たちの努力をあざ笑うかのように感染者が増えました。

ポピドンヨードでうがいをするといいというのもありました。あんなことを言ったら、ドラッグストアからイソジンがなくなるじゃないかと批判する人がたくさんでした。当然、世の中は手指消毒のほかにもうがいも推奨していたので、イソジンでうがいすることはいいことじゃん、と私は感じておりました。今でも私は毎朝イソジンでうがいをしています。感染した人がほかの人にうつす人数を1人以下にすれば、いずれは感染がおさまるのですから。ところが最近、さいたまでミュージカル団員がいっぺんに70数名の感染者を出しました。感染源が一人らしいのですが、一人からそんなに感染させたら収まるどころではないですね。

そんなこんなでまだまだ世の中、否定形で語られる状況に変わりがないようです。第2波の山は越えましたが、下げ止まってしまいました。この原稿が皆様に届くころには第3波が来ているかもしれません。

さて、私たち自然文化誌研究会が実施しているキャンプですが、環境教育をうたっています。環境教育というのは知識を教える学校教育とはちょっと違って、自分で課題を見つけ、自分で課題を解決していくものです。ですからかならずしもキャンプである必要はありません。ですが、学校からも家からも遠いところで、友達もいない、テレビもない、スマホは使わせてもらえない、ただ山があって木が生えていて、川が流れているだけのキャンプ場は、そのままではなにも与えてはもらえない環境です。自らが行動しないとただただつまらない、そんな環境です。そういう状況では想像力がおおいに発揮されます。課題は満載でその割には解決するための方策は限られている、私たちはそういう環境を提供しているわけです。そんな中でも子供たちの想像力には私たちも大いに触発されますし、とても楽しい。そんな子供たちを見ているだけでも楽しい。楽しくなければ、私たちスタッフも手弁当では集まれませんもの。課題解決はうまくいくときもあれば、うまくいかないときもあります。途中で放り出してしまうときもある。複数の参加者が知恵を出し合って試行錯誤を繰り返すこともある。

しかしながら、こういう状況です。コロナだけではなく、ノロウイルスやインフルエンザウイルスの心配もしなければなりません。キャンプをやっている人との接触は避けるとか、大声を出すとか、寝るときは各自各テントで個室にして寝るとか、それではソロキャンプの集合体です。人とかかわり避けてキャンプをやっている楽しいですか。キャンプをやるのが目的ではありません。どんなことでもいい、参加者の皆さんに何かを感じてもらえなければ、そして楽しくなければいけません。参加者の皆さんが短い時間でもキャンプに参加して、ちょっと成長したかとも思えるような、そんなキャンプを提供していきたい。そんな参加者の皆さんを見るのがうれしいし、なにより楽しくないキャンプなどいやですもの。

キャンプを楽しみにしている皆さんには、この状況下でキャンプを実施することができず、大変申し訳ないと思います。私たちが望むキャンプができるようになるまで、キャンプをせずに待っていただければでしょうか。

年末に予定していた「冒険学校 まるゆのキャンプ」は中止ですが、スタッフのみによる研修などを検討しています。（事務局）

『藤農便り』 第 22 号

宮本茶園 ヘルミッシヨネルズ宮本

※「藤農便り 第 21 号」については、本会のホームページ WEB 版ナマステからご覧になれます！

長い梅雨の後は猛暑の 8 月、相模原 市民がつくる総合雑誌アゴラに「佐野川茶誕生と足柄茶北端産地の未来」という文章を投稿しました。連日の草刈りで 20 時就寝、起床してから畑に出るまでの時間を使ってパソコンに向かいました。原稿では藤野に移住し茶栽培に取り組むまでを振り返り、佐野川茶製品普及活動について紹介させてもらいました。10 月に刊行されたアゴラ No.94 には、文部科学事務次官だった前川喜平さんを相模湖に招いた講演録も掲載されています。教育問題の様々な話題の中で、教員免許更新制に触れられています。政権政党・自民党では「組合活動にうつつをぬかすような教師は免許更新制で落とすんだ」という議論が行われ、文科省内の反対を押し切ってむりやり導入されたいきさつを話されました。1986 年新採用時から 2013 年失職するまで日教組に加入していた私が茶農家になるきっかけの教員免許更新制、国会前の神奈川高教組隊列で 1 週間座り込んででも法案阻止できなかった私なりのけじめをつけた免許更新拒否と失職、遠い昔の思い出です。

・3 年目の佐野川茶

今年の一番茶収穫は、藤野茶業部役員が各茶園の新芽育ち具合を調べて摘採計画を立て、機械操作 2 名・摘採袋持ち 1 名を基本チームにして人手を確保しました。茶葉摘採は 2〜3 チームで作業し、全ての茶園で摘採開始から串川荒茶工場搬入までを 3 時間以内に行うことができました。延べ作業人数 99 名・作業日数 10 日間、役員は皆勤で疲労困憊ですが、共同作業の成果は如実に表れています。10 月の部会で報告された今年度足柄茶品評会審査結果では、大河原部長が 23 位です。21 位までが入賞だったので、部長の好成績は佐野川茶の希望です！

私は和田茶園の茶葉を「宮本茶園謹製 佐野川茶」に製品加工し、1 年目に使った竹嶋さんの段々茶畑のラベルデザインパッケージを復活させました。和田茶園は有機肥料を施し、ワラ・大豆殻等有機資材を畝間に敷き込む茶草場農法で栽培しています。茶来末の佐々木社長や木村普及員に荒茶を見ていただき、販売価格は 100g 入袋 1500 円に設定しました。農薬を使わない有機栽培で価格に見合う茶葉を生産しますので、応援をお願いします。佐野川茶製品は 7 月から新茶を販売しています。JA 藤野園芸センターの佐野川茶コーナーにそろう踏み

した 4 製品、2018 年 10 月 1 日佐野川茶が初めて農協店舗に並んだ事を思い起こすと感無量です！



8 月 5 日茶来末の佐々木社長を佐野川にお招きし、JA 藤野支店で「佐野川茶ブランド構築」をテーマに講演をしていただきました。佐々木社長は佐野川茶を、①相模原市緑区佐野川地区で栽培されたお茶 ②農薬をあまり使用せず安心安全である ③農業技術センター木村先生の技術提供を受け、適切に栽培された生葉を加工したもの ④茶来末の 12 微細分類製茶法の技術を用い、火入れ焙煎加工され衛生的に袋詰めかこうしたもの とブランド規定されました。藤野茶業部 3 年間の取り組みを評価し、「陣馬山麓にある『日本の里 100 選』の景観を守り、そこで生産される佐野川茶を相模原市の名産品にしていきましょう」と励ましていただきました。



講演会では JA 神奈川つくと協力しての 6 次産業化体制作り・相模原市ふるさと納税返礼品登録や地元企業との連携・大学や研究機関との製品開発等、具体的な取り組み方法のアドバイスもいただきました。私には作業着での畑仕事が性に合っていますが、時々スーツを着ての営業活動もしなければと考えています。

・夏秋の茶仕事

梅雨明け直前の夏整枝後は除草作業が主な仕事になりますが、和田茶園は冬の間猪の掘った穴を埋めながら雑草の根を取り除き、ツル草が本当に少なくなりました。新規就農1年目の夏、小池前部長から「畑が雑草だらけだぞ！どうするのだ？」としばしば叱られた事を思い出し、努力は必ず報われるのだと実感しています。私はこれまで春肥と秋肥しか茶園に施してきませんでしたが、木村先生の夏整枝講習会で「来年高品質の茶葉を収穫するために、皆さん夏肥を施しましょう」という指導がありました。1反当り20袋の鶏糞施肥を指示され、120袋購入して6反の茶園に施肥しました。和田茶園は40袋、猛暑の中担ぎ上げる勇気がなく、地主の小澤さんから自治会の運搬機を借りて運びました。120袋の施肥は5日間かかりましたが、今夏は体を壊すこともなく、気力に体力が追いついてきたようです！



9月中旬からの秋肥作業では足柄茶に出荷する上岩茶園に尿素と豚糞、佐野川茶用の和田茶園に油粕と豚糞を施しました。木村先生は「年間の窒素分は1反当り40kg施肥が望ましい」と営農指導されるので、今年は教える達成する事ができました。施肥後は耕運機で畝間を深耕して、夏肥・秋肥をていねいに株元へすき込みました。10月秋整枝講習会后、各茶園の整枝をしましたが窒素分40kgの効果は絶大で、10/月24日製枝した和田茶園では秋が深まってもお新しい芽が伸びています。台風上陸はなかったものの雨降りが多かった今秋、作業日程は遅れがちでしたが、共同作業で藤野茶業部全茶園の秋整枝は10月末に無事終了、冬を迎えます。



・第42回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

コロナ禍の影響で実行委員会での打ち合わせができずに開催が危ぶまれた追悼会ですが、地元スタッフが集まり実施を前提に検討を重ねました。4年前津久井やまゆり園事件の起きた7月26日、コロナ感染防止のために規模を縮小し献花追悼のみで実施する事を決め、準備を進める事になりました。私は正式に献花用生花栽培を担当し、自宅で育苗したひまわりとアスターを花卉畑に植え付けました。各種子は2回に分けて播きましたが、7月26日当日の第一回播種ひまわりの花は終わりかけ、第2回播種の花は咲き始めてした。アスターの開花は僅かで、追悼会当日に開花ピークを作る栽培技術は修業が必要です。梅雨空の早朝、生花スタッフ総出できれいに咲いたひまわりを選んで献花用に400本を切りました。



相模湖交流センターの会場では、津久井の里山にある自然素材を使ったモニュメントと献花台を担当スタッフが設営しています。佐野川で収穫した切花は、飾花と献花に手際よく分けられ会場を彩ります。今年は津久井やまゆり園で献花をされた神奈川県知事や相模原市長が合同追悼会に参加されました。駐車場係りの仕事が終わり終了間近の会場に入ると、献花台にたくさんのひまわりがさざげられています。ダム建設工事犠牲者の霊を慰める切花栽培、担当してよかったです。



追悼会後の8月下旬、神奈川県朝鮮中高級学校の生徒たちが相模ダムを訪れた課外学習中に、建設工事で命を落とした朝鮮半島出身者らを追悼する石碑の看板が傷付けられている事がわかり、マスコミ報道されました。「当時植民地であった朝鮮半島」という一文の「植民地」の部分が読めないように削られた行為は、日本のアジア侵略の歴史をねじ曲げるものです。許しがたい事にネットのコメントには、「アチラの自称学校」等民族学校で学ぶ生徒たちの人権を否定する汚い言葉があふれています。日本の敗戦から75年、憲法違反の日本の軍隊は空母を保有し、今や「敵基地攻撃」を主張するようになりました。侵略戦争に駆り出される若者が戦場で殺し合う事が現実になった時、正しい歴史を学ばなかった日本人の行く末が心配です。

・雑穀栽培活動 2020 その2

茶収穫と花卉植え付け作業が一段落した6月下旬、雑穀の播種を行いました。木俣師と「植物と人々の博物館」メルマガ 68～70号で報告されている学大コカ・コーラボジプロジェクト雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ復活企画を進めています。ピーボは2009年学大創立60周年にINCHがつくった発泡酒で、生協等で販売され好評を得た製品です。学大は1949年新制大学として発足しましたが、その系譜をたどると1873年に設立された東京府小学教則講習所にさかのぼります。2023年が創設150周年という事でピーボ復活が企画され、佐野川には山口さんのクラフトビール工房があり卒業生の私がホップと雑穀を栽培しているので、お話しをいただきました。木俣師が退官されてから疎遠になった学大ですが、卒業生として母校の記念企画に参加できるのは嬉しい限りです。

ピーボ原料のキビ・アワを確実に収穫するため、西原の中川さんを訪ねて防鳥ネット設置について教えを請いました。支柱にキュウリ栽培用パイプを使うと効率よくネットが張れ、10mm 網目のネットは雀の侵入を防ぐそうです。昨年まで使っていた20mm 網目のネットは雀がすり抜けて入り込み、支柱の竹切り作業も負担だったので、さっそく農協の営農経済課にネットとパイプを発注しました。

8月25日、木俣師と黒澤君に手伝ってもらいネット

張りをしました。前日に支柱パイプを設置したので、ネットをパイプの上に広げて所々を麻紐で固定する作業は短時間で終わりました。木俣師と一緒に畑仕事をしたのは職業科の農場実習以来で、楽しかった学大の授業を久し振りに思い出しました。おかげでキビやアワは雀の襲撃を受けず、無事収穫する事ができました。



※佐野川雑穀見本園では、木俣師や西原の中川さんからいただいた種子を継いでいます。雑穀栽培に興味ある方は、【090-2205-8476 宮本 透】までご連絡ください。佐野川をご案内し、種子をお分けします。佐野川茶を藤野土産にご購入いただければ幸いです。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8 その 12

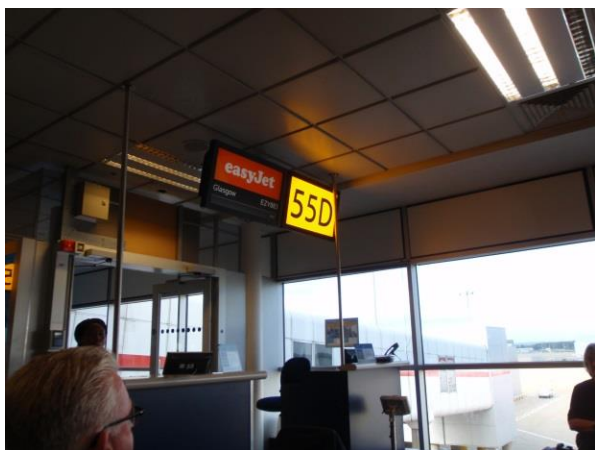
アイラ島再び（その 2）

佐伯 順弘（岐阜県）

DAY3（10AUG2016）ロンドン→アイラ島

0520 起床。ロンドン市内から鉄道で、ロンドンガトウィック空港まで移動。0730 に朝食をとってのんびり空港を楽しんでいた。8 月 8 日の昼ごろ自宅を出発したが、8 月 10 日の朝、まだまだアイラ島には到着していない。

0800 セキュリティーチェックを通過。通過後もレストランを始め、多くのショップが並んでいるので退屈はしない。ただ、搭乗口がわからないのでやや心配である。搭乗口はベンチが並んでいるスペースにあるディスプレイに表示されるのだが、まだ自分が乗るべきフライトが表示されないのである。0815 やっと 55D の GATE であることがわかり、若干早足で向かう。



しかし、急いだ割にはなかなかゲートが開かず、結局 0850 にやっと搭乗開始である。確か 0855 出発のはずだが・・・いつのまにか 0930 出発に変更されていた。ま、安全確保は大切であるから特に問題はない。しかし！本来そこまで見通してスケジュールを組むものではないのか！とも思う。とはいえ、そういう設定だと駐機時間が長くなり、費用が掛かるため結局こちらの懐が痛くなるわけなので、仕方ない。顧客に安全なフライトを提供し、しかも利益を出さねば経営は続けられない。苦しいのはわかる。しかし、しかしですよ。それでも時間は守ったほうがいいと思うのですよ。こういう思考はたぶん日本的なものなのだろう。時間を守るのが当然、守ることのできない者は人に非ず！的なことを

学生のときに人格否定までされて叩き込まれるからしみこんでしまっているのだろう。社会人になっても、朝早く出勤し、最後に帰るだけでそこそこ出世できるから日本って怖い国だ。そりゃ、時間を守ろうっていう気にもなる。でも、本当は待たせる方が格上なんだという事実気づいている人は案外少ない。



ま、そんなことはどうでもいい。また、どうでもいい考察をしてしまった。とにかくロンドンからグラスゴーまでのフライトである。

約 1 時間でロンドンのずっと北の方にあるグラスゴーに到着。グラスゴーはスコットランドのメジャーな都市である。

ところで、賢明な諸君は理解していると思うが、一応確認しておく。スコットランドは国名ではない。そもそもイギリス、英国ですら、彼らが名乗っているわけではなく、日本が勝手に該当地域をそう呼んでいるだけで、日本以外の国、私たちが言うところのイギリスでも「イギリス」という言葉は通用しない。正式名称は「United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland」と、そこそこ長い国名であり、略称が「United Kingdom」、「UK」である。ユナイテッドキングダムとかユーケーと言われている。「イングランド」（ロンドンがあるところ）、「スコットランド」（エディンバラやグラスゴー、アイラ島があるところ）、「ウェールズ」、「北アイルランド」の 4 つの地域が連合した国なのである。

最近 UK は EU から離脱したが、その UK を構成する「スコットランド」は UK から離れたいと以前から言っている状態の国なのである。そのスコットランド独立はかなり前から言われており、その昔、イングランドはスコットランドにかなりひどいことをしたらしいので、スコッツ（スコットランド人たちは）はそこそこ根にもっている模様。今までも独立したいという話は頻繁に出てきているようだ。独立問題に介入するつもりは毛頭ないが、スコッチ、つまりはスコットランドのウィスキーを研究にきているので、その研究対象地域であるスコットランドに到着したことははっきりさせておかななくてはならないのである。さて、話はずいぶんそれだが、そのスコットランドの大きな都市はグラスゴーやエディンバラで、それらの都市から各方面のアクセスは便利になっている。今回アイラ島に行くわけだが、今いるグラスゴーから最終目的地のアイラ島へのフライトがあるため、まずはグラスゴーにやってきましたわけだ。グラスゴーもいい街で滞在したいのだが、今は空港で通過するだけである。帰りに宿泊する予定である。

グラスゴー国際空港に到着したので、空港内で、乗り継ぐ LCC の Flybe のカウンターを探す。あっさり見つけて、1100 チェックイン。

さて、1700 のグラスゴー→アイラ島のフライトまで 6 時間。なぜこんなにも長い余裕を確保するかというと、慌てるのが嫌だからだ。もちろんその時間のフライトが安いというのも大きな要素である。時間によって料金が違うのは、ロンドンの地下鉄でもあり、こちらではそういう制度になっているらしい。混雑緩和に良い制度である。また、LCC（格安航空会社、ローコストキャリア Low-cost carrier）を信用していないわけではないが、価格を抑えている分遅れることもあるだろうし、グラスゴー⇄アイラは一日三往復なので、乗れないとかなり面倒なことになるため、大事を取ったわけである。実は、将来的に結構な体験をすることになるのだが、それはまた別の話である。とにかく、どれだけ待とうとも空港の待ち時間を楽しむ術を十分心得ているので、どうってことはないのだ。

さて、昼時なのでとりあえずメシである。パニーニ、エスプレッソ、水 GBP8.6。



普通にうまい。日本のコンビニのものより5倍くらいうまい。ただ、これで約 1250 円。安くはない。どこでも空港めしは高い。居心地の良いその店 MOZZO COFFEE HOUSE を出たのが約 2 時間後。空港を徘徊しようと思ったところ、すぐ出会ってしまったのが、コンビニ的なスーパー。コンビニよりは大きいけれど、スーパーマーケットというには小さい感じ。そのコンビニの名前は TESCOexpress（日本にもあるのかな。）イギリスでは各地にあることを確認している。旅は結果的にしっかり食べてしまうことも多いが（予想以上に大盛で来ることがある。特にフライドポテト）、基本的に少なめに食べることにしているので、ちょっとしたものを少しずつ購入することになる。



で、小エビのサンドイッチ。小エビのサンドイッチがあれば、買う確率はかなり高い。これはビバリーヒルズ・コップでエディー・マーフィーが自分を追跡してきている刑事を振り払うためにホテルのデリバリーで小エビのサンドイッチを届けさせるシーンがあり、その時にそれはうまいのか？と思ったことがそもそものこだわりの始まりである。結論として旨いのだが、食べる度にビバリーヒルズ・コップのあのシーンを思い出す。ま、どうでもいい話

だ。ポテチと水を合わせて 3GBP である。待合スペースのベンチで小説「赤目小藤次」を読みつつ、水以外を完食。そこで、アイラ島から戻ってきたときに市内まで行くためのバスをチェックしていなかったことに気づき、探索を始める。ところが、空港を出たところにバス乗り場があり、あっさりミッションコンプリートである。下調べの通り、グラスゴー空港から市内のBuchanan St.までは500番のバスで行けることを確認。で、どうしようかと思ったが、セキュリティチェックで時間がかかる恐れありと予想し、かなり早い通過することにした。ところが予想外にあっさりと通過してしまう。セキュリティチェック通過後のエリアには、ブランドショップ、コンビニばかりではなく、バー、レストランなどが予想以上に多くあったのだが、もう腹が食べたくないと言っているのを止めておく。三連続、四連続で悉く予想は外れている。しかし、1時間後でないと搭乗ゲートが表示されないらしい。この状況で何かを食べながら待つという技は使えない。それでも様々なショップを巡回し、ウィスキーの品ぞろえや価格の点検、香水の香りの点検などしておくべきことは数多くある。そんなことをしていると、1時間はあっという間に過ぎ、ディスプレイに搭乗ゲートは 01 であると表示されたのですぐ向かう。1625 のことである。



1640 すぐ搭乗が始まり、1714 take off。あれだけ待って 1740 touch down。ほぼ 30 分のフライト。あっという間にアイラ島に到着だ。

8 月 8 日の昼頃に自宅を出発し、時差はあるものの 8 月 10 日の夕方の到着である。移動は旅をしている感じがして好きなので、苦にはならない。飛行機大好き、列車に揺られてというのも好き、船は揺れなきゃ好き。(その昔、神戸発上海行きの船は大変だった。船内のトイレは酸性の香りがする地

獄だった。) トラブルさえも素敵なスパイス。空港や駅など人々が集まるところも楽しい。ということで、そんなに大変な思いをすることなく、アイラ島到着である。

「ただいま、アイラ島！」

空港を出るとバス停が近くにあり、出発時刻を調べようとしている。「どこまで行くんだい？」と人のよさそうなおじさんに(自分も十分おじさんだが、旅の途中は完全に大学生の感覚である。)聞かれ、「ボウモアまで行きたいんだよ。」と答えると、乗せてやるという。やはり、俺の好きなアイラ島の人々は素敵な人が多いのだ。空港に家族を迎えにきたおじさんで、車の中でいろいろ話をした。アイラにはウィスキーを楽しみに来たんだよ。特にラフロイグが好きなんだという、おじさんはそれも悪くないけど、ブルイックラディもうまいよという。なんと、その蒸留所で働いている人だった。確信した。スコッチウィスキー好きに悪い奴はいないのだ。誰が何と言おうと確定である。静かに心の中で一つの真理を発見し、納得していると、あっという間にボウモアに到着した。ボウモアは有名なボウモア蒸留所がある街である。



車に乗せてくれた彼は、これからブルイックラディ蒸留所までいくのだろう。

感謝を告げて車を見送った。

降りしてもらったところから数分で「定宿」(まだ2回目だが、そう呼ばせてもらう。)であるボウモアホテルに 1756 到着。



部屋で暫し寛いだ後、バーへ出撃だ。

フィッシュ&チップスを頼み、そしてビールを1 PINT (UK パイントは 568ml)。旨し。誰が何と言ってもこれはうまい。

バーにはビールサーバーがずらりと並ぶ。ビールの銘柄は数えるほどしかわからないが、サーバーについているラベルを見て、ジャケ買いならぬラベル買いで立て続けに3杯。



アイラ島に到着した喜びで調子に乗り過ぎた。もう食べられない。ビールもそうだが、付け合せのポテチが多すぎる。ありがたいのだが、多すぎる。こちらではこの多すぎるのが標準らしい。みんな普通に完食している。みんな食い過ぎだよ。欧米人は全体的に大量に食事を摂取する傾向がある。だからあんなにでかいのか。

2200 ごろシャワーを浴びて就寝。

DAY4 (11AUG2016) アイラ島 曇時々雨
安心して寝過ぎた。雨が降っている。風も強い。そして、寒い。今は夏だよ。

0820 朝食へ。フルブレックファースト。つまり、シリアルとかだけじゃなくて、卵とかベーコンとか全部というやつ。イングランドのとはハギスなど内容が違うのである。ハギスは以前解説したので、忘れた読者諸君は参照されたい。



食事後、部屋に戻り、「水族館ガール」を読む。

1055 街の探索へ出かける。今日はボウモアという街をよく知るための日である。また、明日からの本格的な蒸留所探訪のための情報収集の日でもある。



ボウモアのメインストリート。正面奥にある建物がこの街のランドマーク的な教会である。

空を見ればわかるが、曇りや小雨が多い。時々強い日が射すこともあり、一日の中に四季があるとはよく言ったものだと思う。インフォメーションセンターで交通手段などの相談をし、地図を買い、綿密に最終的な行動予定を立てた。

昼食を抜き、夕食にはビールを2PINT 飲んで寝る。

(続く)

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.12 その3

八丈島探検記～本編その2

贅田隼人（だにえる）

この記事はなんぞや？ということでざっと概要を。2019年8月18日夜から八丈島に船で向かい、原付で八丈島を堪能して22日夜に東京に戻ってくるという原付旅の記録です。今回は八丈島2日目（8月20日）です。

※ 八丈島探検記～本編その1については、本会のホームページWEB版ナマステからご覧になれます！



熱帯夜に苦しんでいたのに、テントが明るくなると自然と目が覚めるもので、6時前に起きてしまいました。急ぐ用事もないので、のんびりと支度を進めます。本当は朝ごはんを食べに行きたかったのですが、お目当ての店が定休日だったので今日はキャンプ場で済ませました。今日はまず、1日目に行きそびれたポットホールを目指すことにします。

キャンプ場を出て、三原山方面に進みます。昨日通らなかった道を開拓してみようと寄り道をしていると、何やら白くて大きな建物がいくつか見えました。近づいてみると、油槽所という表示がありました。船に使うものなのか、ガソリンスタンドなどに持っていく分なのかなどは分かりませんでしたが、八丈島で使う燃料を貯めておく施設のようです。八丈島はバイクや車が多いですし、船や飛行機と燃料を必要とするものが多いうえに、台風などでその供給が不安定になることもあるでしょうから、こういった建物が必要なんだろうなあと一人で感心してしまいました。（ガソリン価格の安い埼玉の生まれなので、島のガソリン価格にはいまだに不満を持っていますが）



そんな寄り道をしながら登龍峠を進みます。天气が良かったので登龍園地で休憩していると、昨日乗ってきた橘丸が入港してくる様子が見えました。向きを変えて、港に寄せる様子が面白く、遠くからですがずっと見てしまいました。



再び、リトルカブを走らせます。八丈島一周道路からポットホールのある、こん沢林道へ入ると一車線分ほどの狭い道になりました。落ち葉や苔が多いところもあるけど、それほど道路の状況が悪くなくて良かったなあと思いつつ走らせていると、倒木が道の半分くらいをふさいでいました。あまりに大きくて動かしそうがないし、原付でよかったなと思いながらよけて通ることにしました。車で通りたかった人がいたらごめんなさい、でも一人ではびくともしませんでした。

予期せぬトラブルもありつつ、目的地のポットホールに到着しました。観光スポットとして整備されているようで、車を停めておくスペースや説明の看板もあって有難いです。ポットホールは罅穴（おうけつ）とも言い、水の流れて浸食されてできたくぼみに、小石などが入り、水と小石でさらに浸食が進み、円形の穴になったものことだそうです。色々な場所で見られますが、八丈島のこん沢林道罅穴群は数百メートルにわたってポットホールが存在している点で珍しいものだそうです。まずは、散策路に沿ってポットホールを見ていきます。角の取れた小石がいくつも穴に入っている様子が確認できますが、動いている石はありませんでした。雨などで水量が増えたときに回転するものなののでしょうか？散策路自体はあまり長くないので15分ほどで終わってしまいました。時間的に余裕があるので散策路から外れてさらに上流の方へ行ってみることにしました。沢を歩くような感じになるので、足を滑らせないように慎重に進みます。流れ

が二手に分かれているところや、1メートルほどの落差があるとこもあり、進んでいて楽しいです。30分くらい進んだと思います。3メートルほどの崖が目の前に現れました。無理矢理にでも登れそうですが、降りれなくなってしまうと困るので引き上げることにしました。きちんと準備すれば、三原山の山頂を目指すこともできたのかと思うと、もう一度挑戦してみたいなという気がします。2回ほど足を滑らせながら、停めてあったリトルカブの所まで帰ってきました。ポットホール、ちょっと地味ですけど八丈島に行った際には行ってほしいです。



こん沢林道を進んで、島の反対側を目指します。スリッパしないように、落ち葉やマンホールなどは気を付けていたのですが、下り道でいきなり舗装されていた道が砂利道に変わりました。咄嗟に減速し、足も出してバランスを取ります。10メートルほど使ってなんとか転ぶことなく止まることができました。山の中でケガをしたり、原付が走行不能になったりするようなことがあるとお手上げなので本当にひやひやしました。一度転んで走行不能にしたことがある経験がここでの危機管理につながりました。砂利道を慎重に下り再びコンクリの道に出ても、知っている道に出るまではゆっくりと進みました。

お昼ご飯にしようとして人におすすめを尋ねつつ原付を走らせ、郷土料理が食べられる「いそざきえん」さんに行きました。メインは麦粥で、これも美味しかったのですが、興味深かったのは露地栽培のバナナと「きんぼし」という料理でした。トマトと一緒にバナナが出てきて、「うちで採れたバナナです。」って言われた時は思わず聞き返してしまいました。ハイビスカスがいたるところに咲いているけど、バナナまで育つんですね、八丈島。きんぼしというのは、サツマイモを干して小豆などと一緒に甘く煮たものだそうで、味は栗きんとんに似ていました。食べたときはこういう食べ方も美味しいなという程度の感想だったのですが、記事を書くにあたって調べると米の代わりになる保存食として重宝された歴史があり、今では食べる人も作る人も少なくなってしまう文化の継承の面でも興味深いものだということが分かり、作り方をもっとしっかり聞いてくればよかったなと思いました。昔は一年間食べられるようにサツマイモを干して作っていたということなので、八丈島の食を支える重要なものだったことが伺えます。



お昼を済ませて、元気も出てきたので原付を走らせ、八丈富士のふれあい牧場まで行きました。1日目で八丈富士のあたりは星を見るのにいいという情報があったので、夜に星空観察をする場所を探す意味もあります。登ってきたときはまだ晴れていましたが、牧場について牛や景色を撮っていると霧が出てきました。牧場内のお店に入り、プリンを食べながら（とても美味しかったのでプリンが好きな人は八丈島に来たら是非食べてください）売店の人に話を聞くと、八丈富士の周りは午後になると雲がかかるとのこと。売店の人もここ一か月のうちで片手で数えるほどしか午後は晴れないという話なので八丈富士で星を見るのは難しいようです。季節が違えば、雲の動きも変わるでしょうから冬などにも来てみたいですね。売店の人は八丈富士ではなく、乙千代が浜（おっちょがはま）や南原千畳敷という島の西側が星を見るのに良いと教えてくれたので、そちらに行ってみることにします。

折角八丈富士まで来たことだし、と八丈富士をぐるりと廻る鉢巻道路を一回りしたら、体が冷えました。視界も悪くていいことないし、下ってから天気悪いと嫌だなあと考えながら山を下り始めると日差しが出てきました。のんびり走り、体を温めつつ海沿いまで進みます。山を下りてすぐにアロエ畑が広がっていたのがすごく印象に残っています。アロエも露地で越冬できるのか、八丈島。

南原千畳敷は、足元の黒い溶岩層と青い海が視界に広がる、見晴らしの良い場所です。夜の様子を聞こうと思い、喫茶店らしき建物に寄りました。僕の記憶では、薄暗い店内に店主が行って撮ってきたという東南アジアの写真や小物・敷物があるさびれた海の家のような怪しいお店で、さほど冷たくないアイスコーヒーを飲み、星がよく見える場所であるという言質を取りました。ただ、お店の名前も確認しておこうと検索をかけるとオシャレな料理ときちんとしていてよかったという高評価の口コミが……。僕が出会ったのは幻覚か何かだったのでしょうか、こればかりはもう一度行ってみないと分からないですね……。

時間調整をしつつ、1日目と同じく八丈ストアでお弁当を買い、南原千畳敷へと戻ります。夕日が沈んでいくのを眺めつつ、夕食を済ませ、暗くなるのをさらに待ちます。灯台の明かりを避けて、あの辺で寝転んで見れば星を楽しめるだろうとか、色々と思案しつつ待つまでは良かったのです……。実際に暗くなると、人氣がほと

んどなく、ただただ波音が響く海岸。しかも、溶岩でできている足元は黒く、ただでさえ暗くて確認しにくい足元を一層不安なものにします。見知らぬ土地でこんなに暗い場所にいると人はこうも寂しくなるのかと驚きました。星はすごく綺麗でした。真冬の小菅で見るのと違い、寒さに震えることもありません。でも、すごく落ち着かない気持ちが強かったのを覚えています。同じように星を見る場所を探しに来る人がいるのか、時折海岸沿いの道路を車が通るのがまた怖いのです。暗かったはずの視界の端に急に明かりが通り過ぎていくたびに、体を起こ

して周囲を確認せずにはいられませんでした。そんなこんなで1時間程度滞在してキャンプ場へと撤退してしまいました……。次に行くことがあればラジオでも持って行くのがいいのでしょうか、一人で星を見に行く人とかいたら教えてほしいです。

そんなこんなで、最後は情けない感じの終わり方になってしまいましたが、2日目は以上となります。3日目は温泉目的のツーリングと、今回の電源事情なんかをお伝えできればと思います。では、また！ (つづく)

〇2020 年冬～2021 年春の活動予定のお知らせ

2 月中に NPO 法人自然文化誌研究会 『第 17 回通常総会』 @小菅村
※ホームページで告知します。正会員のみなさまには直接お知らせします。

〇 事務局より

本会の主催事業については中止の判断をしてきました。しかし小菅村自体は、小菅の湯、道の駅、物産館、釣り場をはじめとした観光施設は感染対策をしながらのオープンしており、村外からのお客様ウェルカムです。主催事業は見合わせていますが、自己責任での「いつものキャンプ場」の利用は受け入れております。ご相談いただければ、オリジナルのキャンプを開催することは可能です。お気軽にご相談ください！！ くらさわ

〇 事務局の麗しき日々

- ・翔くんのログハウスは諸事情によりしばらくの間始まらないもよう。
- ・だにえるは、あるご家庭に何かのご挨拶に伺ったもよう。
- ・その間、ログチームは黒澤家のサンルームを建設しているもよう。
- ・ちあきとみくが結婚したもよう、おめでとう！！
- ・いつものキャンプ場が TV 「ヒロシのほっちキャンプ」に出るもよう。
- ・佐川 Q ピンが正会員に復帰したもよう、久しぶり～。

〇 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座 (のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額 (1～12 月) です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員 (個人・団体)：10,000 円

家族会員：6,000 円 特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

雑穀街道特別会員 (小菅特別から変更)：1 口 1,000 円から

成合基金 (冒険探検基金)：「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 140 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2020 年 11 月 20 日

<編 集>自然文化誌研究会 事務局

<発 行> 特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328 (事務局黒澤)

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P： <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>